

第3章 結果の考察

1. 結果の考察

今回のアンケートでは、移転（転入出）のきっかけ、移転先の決定に重視したこと、実際に移転先を決定した理由、情報源、本市に対する印象の変化などについて伺いました。

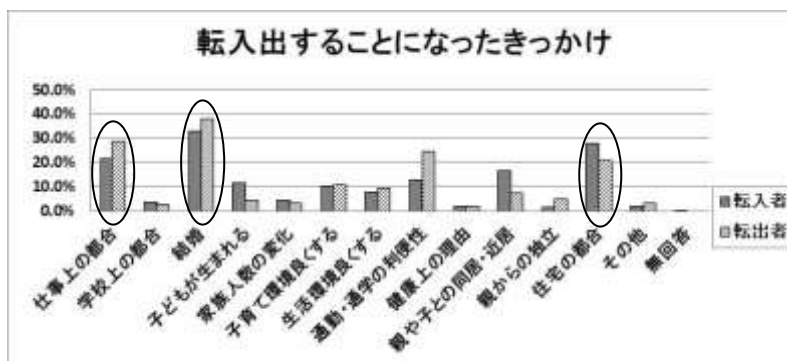
ここでは、本市の人口動態が、近年転出者数が転入者数を上回る社会減となっていることや、平成23年以降死亡数が出生数を上回る自然減となっていることから、本市における将来的な定住人口の維持を見据え、特に若い世代の動向や、雇用や子育て環境の転入出への影響、さらに本市における転入出の特徴など、次の点について考察しました。

- (1) 転入出の全体的な傾向
- (2) 20代及び30代の転入・転出状況
- (3) 転入出と通勤・通学先の関係
- (4) 子育て世代から見た転入・転出状況
- (5) 本市への居住経験、家族とのつながり
- (6) 転出先、転入先の情報源
- (7) アンケートから見た平塚市の強み、弱み

(1) 転入出の全体的な傾向

転入出の全体的な傾向として、転入の主なきっかけは、「結婚」、「住宅の都合」、「仕事上の都合」であり、転出の主なきっかけは、「結婚」、「仕事上の都合」、「通勤・通学の利便性」、「住宅の都合」となっている。転入、転出のいずれも、結婚、仕事、住宅の3つが主なきっかけとなっている。【図1の○囲み部分】

【図1 転入出することになったきっかけ】

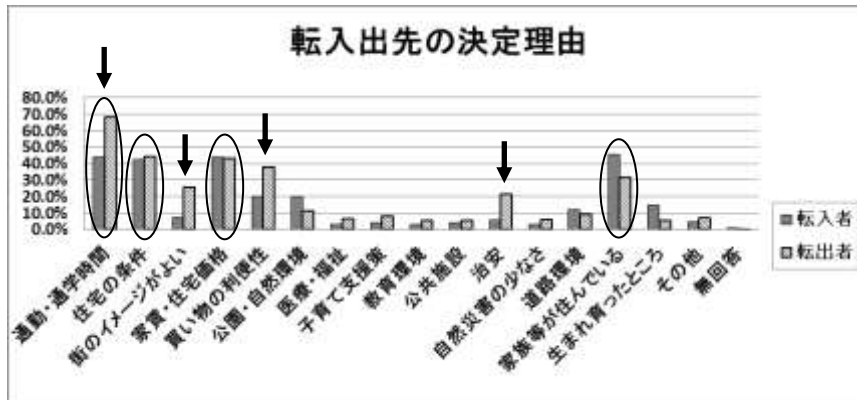


転入出先の決定理由としては、転入、転出ともに「通勤・通学時間」、「住宅の条件」、「家賃・住宅価格」、「家族・親族・知人が（近くに）住んでいる」の割合が高くなっている。【図2の○囲み部分】

「通勤・通学時間」、「買い物の利便性」、「街のイメージがよい」、「治安」は、転出先の決定理由として、転入先の決定理由よりも比較的高い割合を示している。【図2の↓部分】

1. 結果の考察

[図2 転入出先の決定理由]



(2) 20代及び30代の転入・転出状況

ア 20代及び30代の転入・転出のきっかけ

転入、転出のきっかけを表にまとめると次のようになる。

[表1 転入、転出のきっかけ]

年代	転入のきっかけ※複数回答可			転出のきっかけ※複数回答可		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位
20代前半	仕事の都合 (45.0%)	結婚 (15.0%)	住宅の都合 (15.0%)	仕事の都合 (71.4%)	通勤・通学の利便性 (42.9%)	結婚 (7.1%)
20代後半	結婚 (40.7%)	仕事上の都合 (27.2%)	通勤・通学の利便性 (21.0%)	結婚 (48.6%)	仕事上の都合 (34.3%)	通勤・通学の利便性 (25.7%)
30代前半	結婚 (38.9%)	住宅の都合 (32.2%)	仕事上の都合 (20.0%)	結婚 (43.9%)	仕事上の都合 (24.4%)	通勤・通学の利便性 (24.4%)
30代後半	住宅の都合 (35.1%)	結婚 (26.0%)	仕事上の都合 (20.8%)	結婚 (48.6%)	仕事上の都合 (27.8%)	住宅の都合 (20.8%)

- ・20代前半は、転入、転出ともに「仕事の都合」の割合が高いが、20代後半から30代になると、「結婚」の割合が高くなっていることがわかる。
- ・20代、30代ともに割合の高低はあるが、転入、転出のきっかけは全体的な傾向と同じく、結婚、仕事、住宅の3つが主なものとなっている。

イ 転入のきっかけ別にみた平塚市に転入を決めた理由

転入の主なきっかけである「仕事上の都合」、「結婚」、「住宅の都合」別に本市への転入を決めた理由を表にまとめると次のようになる。

1. 結果の考察

[表2 転入のきっかけ別、本市への転入を決めた理由]

転入のきっかけ	年代	本市への転入を決めた理由※複数回答可	
		1位	2位
仕事上の都合	20代	通勤・通学時間 (71.4%)	住宅の条件 (52.4%)
	30代	通勤・通学時間 (77.3%)	家賃・住宅価格 (50.0%)
結婚	20代	通勤・通学時間 (60.7%)	家賃・住宅価格 (50.0%)
	30代	家族・親族等が住んでいる (58.1%)	通勤・通学時間 (51.6%)
住宅の都合	20代	住宅の条件 (64.7%)	家賃・住宅価格など (52.9%)
	30代	家賃・住宅価格 (57.1%)	住宅の条件 (55.1%)

- ・「仕事上の都合」がきっかけの場合、20代、30代ともに「通勤・通学時間」が最も高い。2番目には、20代では「住宅の条件」、30代では「家賃・住宅価格」となっている。
- ・「結婚」がきっかけの場合、20代では「通勤・通学時間」、「家賃・住宅価格」の割合が高く、30代では、「家族・親族などが住んでいる」、「通勤・通学時間」の割合が高い。
- ・「住宅の都合」がきっかけの場合、20代では「住宅の条件」、「家賃・住宅価格」及び「家族・親族などが住んでいる」の割合が高く、30代では「家賃・住宅価格」、「住宅の条件」の割合が高い。

ウ 転出のきっかけ別にみた転出先を決めた理由

転出の主なきっかけである「仕事上の都合」、「結婚」、「住宅の都合」別に他の市区町村へ転出先を決めた理由を表にまとめると次のようになる。

[表3 転出のきっかけ別、転出先の市区町村を決めた理由]

転出のきっかけ	年代	転出先を決めた理由※複数回答可	
		1位	2位
仕事上の都合	20代	通勤・通学時間 (90.0%)	家賃・住宅価格 (60.0%)
	30代	通勤・通学時間 (88.0%)	住宅の条件 (52.0%)
結婚	20代	通勤・通学時間 (92.6%)	買い物の利便性 (59.3%)
	30代	通勤・通学時間 (78.3%)	家賃・住宅価格 (52.2%)
住宅の都合	20代	住宅の条件 (100.0%)	通勤・通学時間 (80.0%)
	30代	住宅の条件 (68.2%)	通勤・通学時間 (45.5%)

- ・「仕事上の都合」がきっかけの場合、20代、30代ともに「通勤・通学時間」の割合が最も高く、2番目には20代で「家賃・住宅価格」、30代で「住宅の条件」となっている。
- ・「結婚」がきっかけの場合、20代、30代ともに「通勤・通学時間」の割合が最も高く、2番目には20代で「買い物の利便性」、30代で「家賃・住宅価格」となっている。
- ・「住宅の都合」がきっかけの場合、20代、30代ともに「住宅の条件」の割合が最も高く、2番目には20代で「通勤・通学時間」、30代で「通勤・通学時間」となっている。

1. 結果の考察

エ 20代及び30代の転入・転出の傾向の考察

「結婚」、「仕事上の都合」をきっかけとして、転入、転出する20代、30代は、転入先や転出先の決定に際し、「通勤・通学時間」を重視している結果から、「結婚」の場合は、本人または結婚相手の勤務地、住所地、「仕事上の都合」の場合は、本人または配偶者の勤務地との距離が転入や転出先の決定に大きな影響を与えられと考えられる。

一方、「住宅の都合」をきっかけとして、転入・転出する20代、30代は、転入先や転出先の決定に際し、「住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ）」や「家賃・住宅価格」を重視することがわかった。つまり、所得の状況や理想とする住まいの条件など、住まいを選ぶ際の価値観が転入や転出先の決定に大きな影響を与えられと考えられる。

(3) 転入出と通勤・通学先の関係

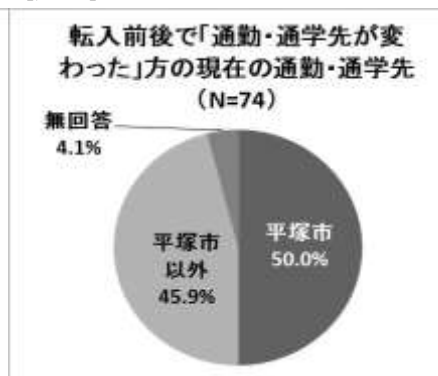
ア 転入者の市内への通勤・通学の状況

本市への転入後の通勤・通学先の状況は次のとおりとなる。

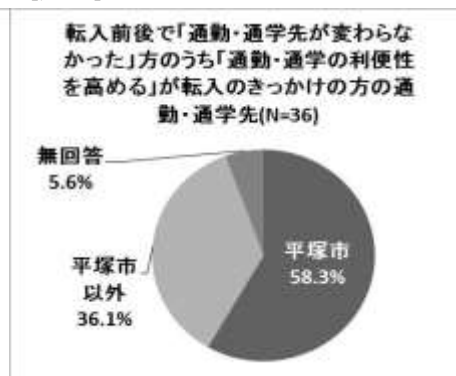
【図3】



【図4】



【図5】

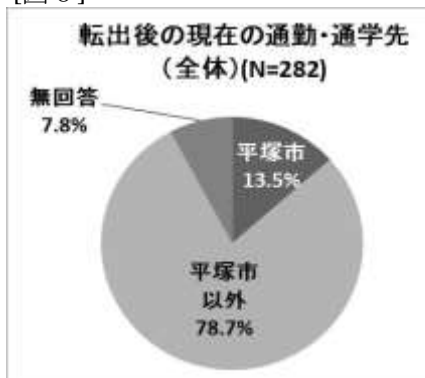


- ・通勤・通学をしている転入者全体では、28.5%は通勤・通学先が本市内であった。【図3】
- ・「通勤・通学先が変わった」方の50%は通勤・通学先が本市内であった。【図4】
- ・「通勤・通学先が変わっていない」方のうち、「通勤・通学の利便性を高める」が転入のきっかけとなった方の58.3%は、通勤・通学先が本市内であった。【図5】

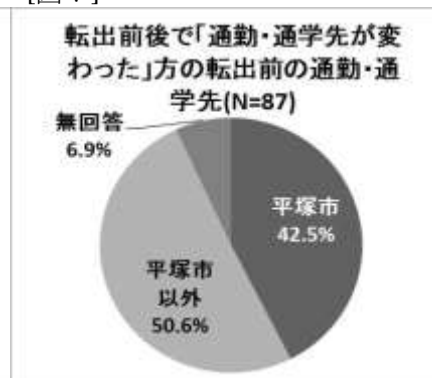
イ 転出者の市内への通勤・通学の状況

本市から転出後の通勤・通学先の状況は次のとおりとなる。

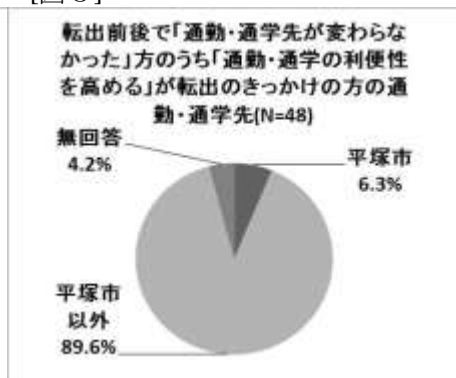
【図6】



【図7】



【図8】



- ・通勤・通学をしている転出者全体では、13.5%は通勤・通学先が本市内であった。【図6】
- ・転出者のうち「通勤・通学先が変わった」方の42.5%は、本市内から市外へ通勤・通学先が変わった方であった。（※対象者87人全員、転出後の通勤・通学先は市外。）【図7】
- ・「通勤・通学先が変わっていない」方のうち、「通勤・通学の利便性を高める」が転出のきっかけとなった方の89.6%は市外に通勤・通学している方であった。【図8】

1. 結果の考察

ウ 通勤・通学先が市内であることの転入出への影響

転入者でみると、(3)アで述べたように「通勤・通学先が変わった」方の50%が転入後の通勤・通学先が本市内であり、また「通勤・通学先が変わっていない」方のうち本市内への転入のきっかけを「通勤・通学の利便性を高める」と選択した方の58.3%が本市内に通勤・通学をしていた。

このことから、市外から本市内に通勤・通学先が変わることをきっかけに、転入の可能性が高まると考えられる。また、市外から市内へ通勤・通学をしている方は、本市内に通勤・通学を続けることが、転入の可能性を高めると考えられる。

転出者でみると、(3)イで述べたように「通勤・通学先が変わった」方の42.5%が転出後の通勤・通学先が本市内から市外へ変わっていること、また「通勤・通学先が変わっていない」方のうち、転出のきっかけを「通勤・通学の利便性を高める」と選択した方の約9割近くの方が、市外へ通勤・通学をしていた。

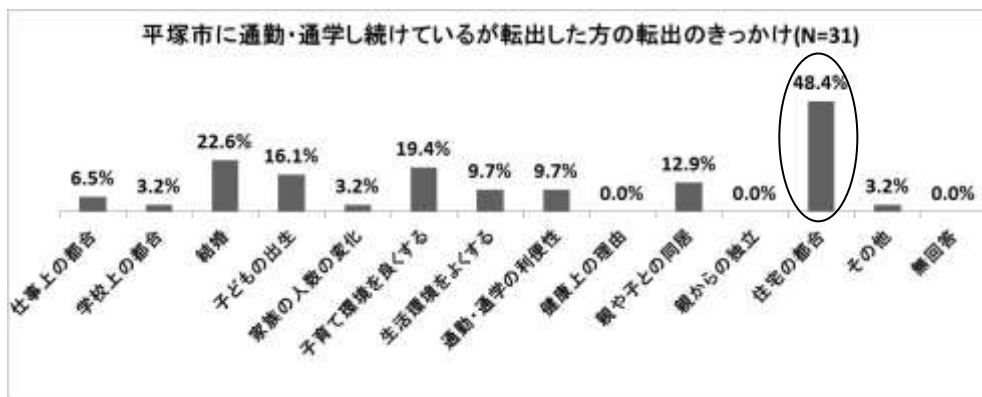
このことから、本市内から市外へ通勤・通学先が変わることをきっかけに、転出の可能性が高まると考えられる。また、本市内から市外に通勤・通学している方が、市外への通勤・通学を続けることで、転出の可能性が高まると考えられる。

これらのことから、市内の雇用環境を充実し、市内に通勤・通学する人を増やすこと、あるいは維持していくことは、転入促進、転出抑制の観点からも重要であると考えられる。

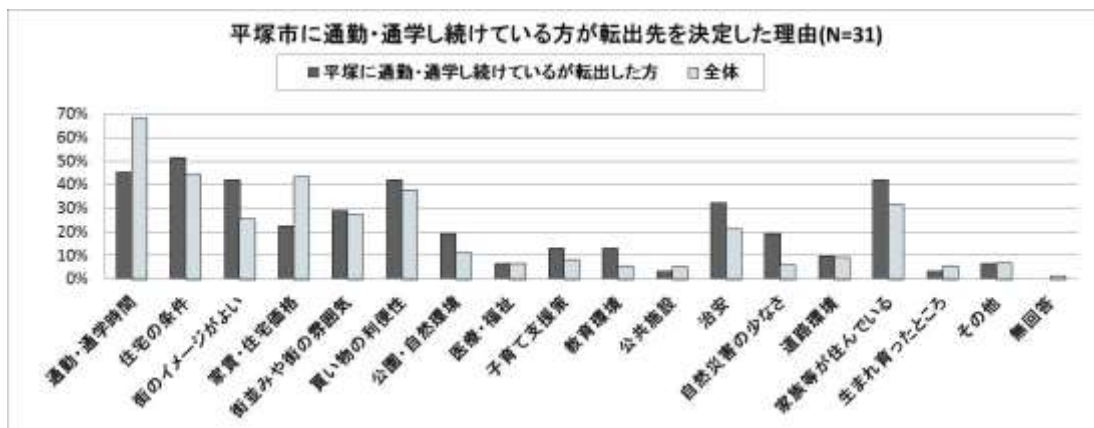
エ 本市内に通勤・通学し続けているのに転出する要因

本市内に通勤・通学し続けているにもかかわらず転出した方が、転出者全体で10%を超えている。転出のきっかけ、転出先の決定理由、平塚市の悪かったところは次のとおり。

[図9 平塚市に通勤・通学し続けているが転出した方の転出のきっかけ]

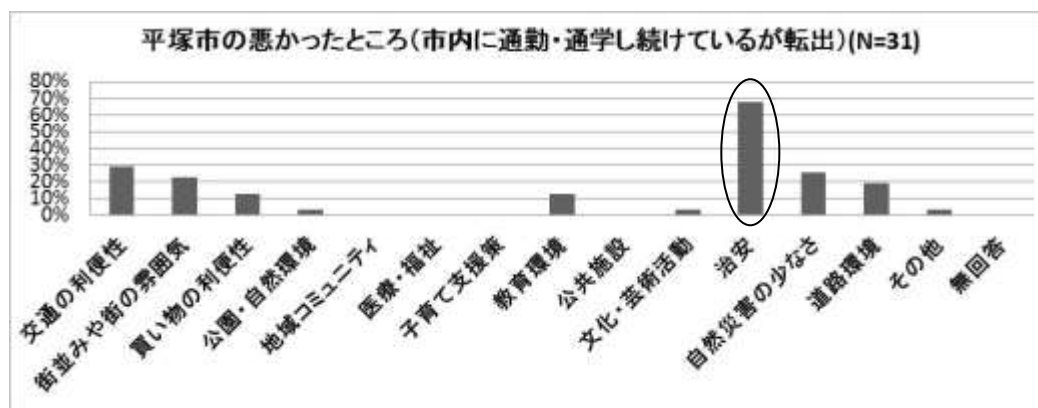


[図10 平塚市に通勤・通学し続けている方が転出先を決定した理由]



1. 結果の考察

[図 1 1 平塚市に通勤・通学し続けている方が転出先を決定した理由]



- ・転出のきっかけは、「住宅の都合」の割合が最も高く【図 9】、転出先の決定理由としては、「通勤時間(45.2%)」や「住宅の条件(51.6%)」のほか、「街のイメージ(41.9%)」や「治安(32.3%)」が高い割合を示している【図 1 0】。また、本市内に通勤・通学し続けているにもかかわらず転出した方の 67.7%が本市の治安に不安を感じている【図 1 1】。
- このことから、「街のイメージ」の好感度を高めることや、「治安」に対する不安を払しょくすることが、転出抑制につながる可能性があると考えられる。

(4) 子育て世帯から見た転入・転出状況

ア 子育て支援策の転入、転出に与える影響

行政サービスを調べたかどうかを子どもの有無別で表にまとめると次のようになる

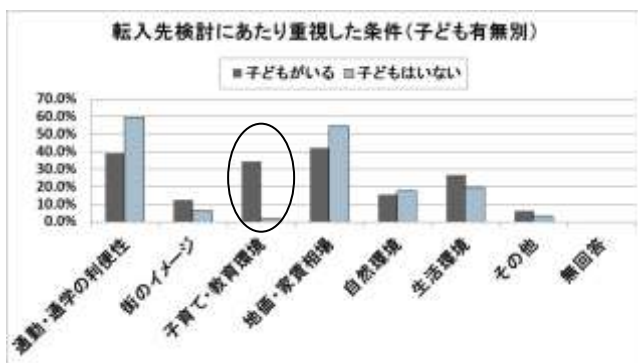
[表 4 行政サービスの調査状況]

子どもの有無	転入者			転出者		
	調べた	調べていない	無回答	調べた	調べていない	無回答
子どもがいる	35.4%	63.0%	1.6%	42.2%	56.7%	1.1%
子どもはいない	18.3%	78.9%	2.8%	17.3%	80.6%	2.1%

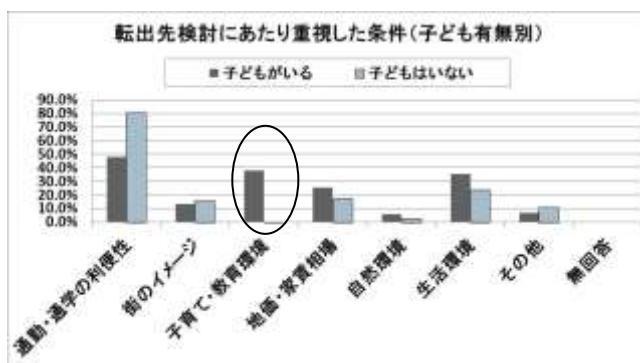
- ・子どもがいる世帯の方が、子どもがいない世帯と比較し、転入、転出ともに行政サービスを調べる傾向が見られた。【表 4】

転入出先の検討の際に重視する条件や、転入出先の決定理由などは次のとおり。

[図 1 2]

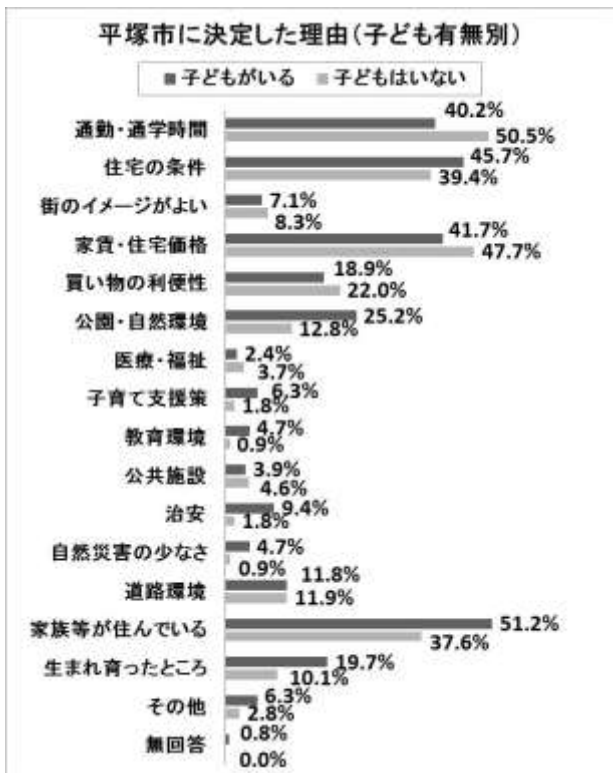


[図 1 3]

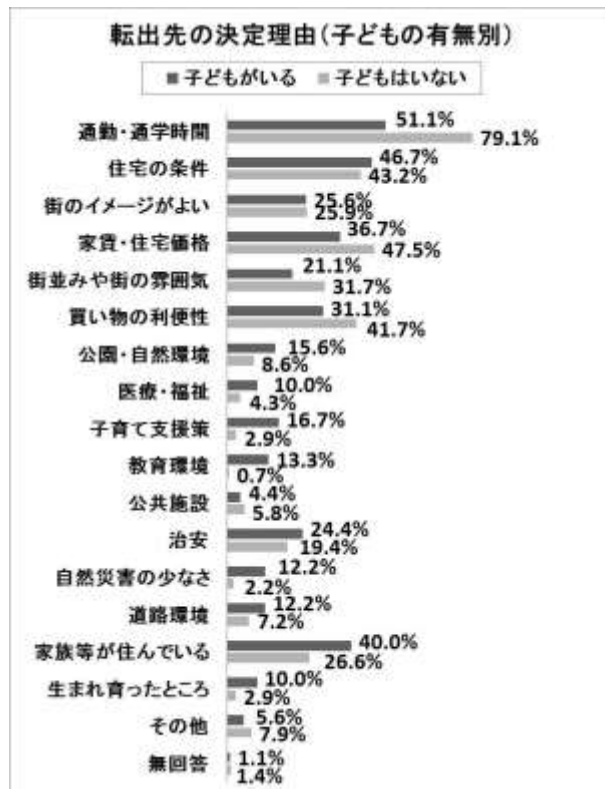


1. 結果の考察

【図14】



【図15】

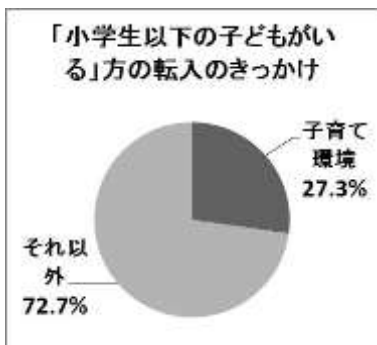


・転出先や転入先の検討にあたって重視する条件としては、「子育て・教育環境」(転出:37.8%、転入:34.4%)が高い割合を示していた。【図12、図13】

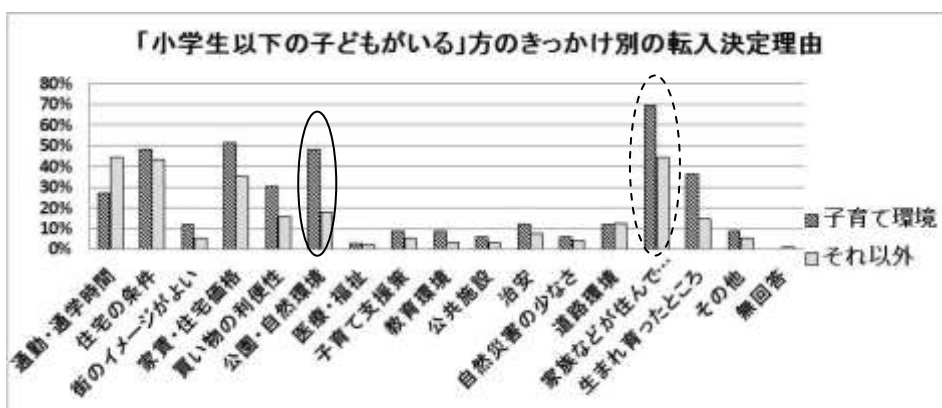
イ 子育て世帯の転入・転出の傾向

子育て世帯のうち、小学生以下の子どもをもつ方で、「子育て環境をよくしたい」が転入出のきっかけとなった方の本市への転入、市外への転出先決定の理由は次のとおり。

【図16】



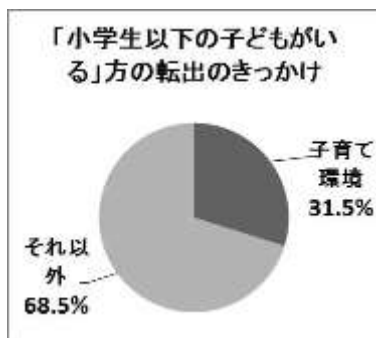
【図17】



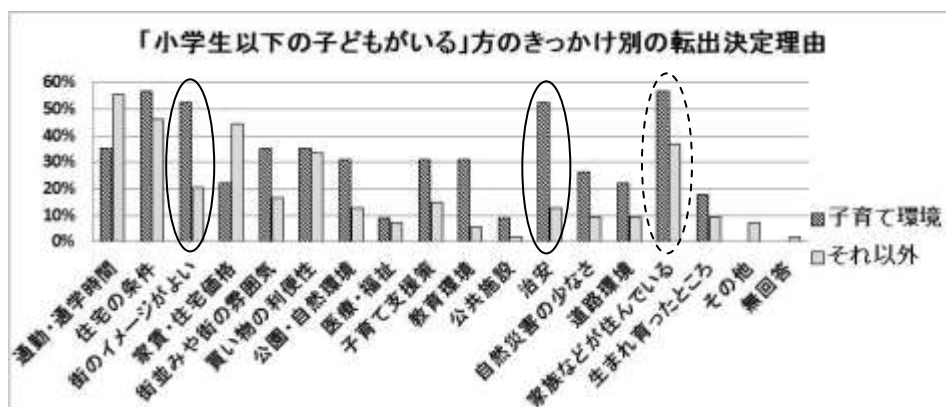
転入者(小学生以下の子ども有) 子育て環境(N=33)
それ以外(N=88)

1. 結果の考察

【図18】



【図19】



転出者（小学生以下の子ども有） 子育て環境(N=23)
それ以外(N=54)

- ・本市へ転入を決定した理由では「公園・自然環境」を選ぶ割合が高く【図17】、市外への転出先を決定した理由では「治安」や「街のイメージがよい」を選ぶ割合が高かった【図19】。また、転入、転出ともに「家族・親族などが住んでいる」が最も高い割合となった【図17、図19】。

ウ 子育て世帯からみた居住地選びの考察

子育て世帯のうち、小学生以下の子どもをもつ方にとって、家族と同居または近くに住むことが、子育て環境を良くするための大きな要素の1つである。特に本市へ転入した方は、この傾向が顕著である【図17】。また、本市は「公園・自然環境」【図17】、他市区町村は「治安」や「街のイメージがよい」などが子育て環境として評価されていることがわかった【図19】。このことから、子育て世帯の定住を促進するためには、公園や自然環境の良さを発信することや、治安に対する不安を解消することが重要であると考えられる。

(5) 本市への居住経験、家族とのつながり

ア 転出者の転出後の本市との関わり

- ・子どもがいない方の転出前後における世帯構成の変化をみると、二世帯同居が63.3%から1.4%に減少していることから、転出者で子どもがいない方の約6割は、就職や進学をきっかけに親元を離れて転出し、転出した方の家族は引き続き平塚市に居住している状況が考えられる。

【表5】

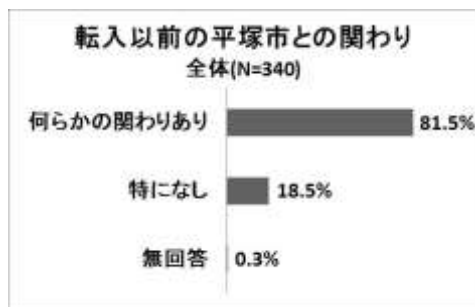
世帯構成(N=139)	転出前	転出後
ひとり暮らし	2.9%	29.5%
夫婦のみ	15.1%	64.7%
二世帯同居(親と子)	63.3%	1.4%
三世帯同居(祖父母と親と子)	14.4%	0.0%
その他	2.2%	2.2%
無回答	2.2%	2.2%

1. 結果の考察

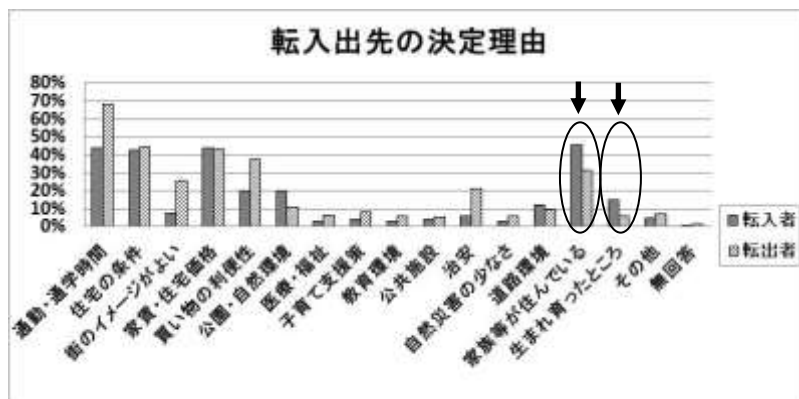
イ 転入者からみる本市との関わり

- ・転入した方の本市との関わりをみると、「親や親族などが住んでいる」が42.6%で最も高く、また「以前に住んでいたことがある」は25.3%であり、その他の選択肢と合わせ本市と何らかの関わりがあった方は全体の約8割にのぼる。【図20】
- ・転入した方のきっかけとしては、「親や子との同居や近くに住む必要」は16.8%ほどであるが、転入の決定理由としては、「家族・親族などが住んでいる」が45.9%と高い割合であった。【図21】

【図20】



【図21】



ウ 本市との関わりと転入への影響

前述の子育て世帯だけでなく、全体としてみても、配偶者の家族・親族などが住んでいることが、本市への転入決定に大きな影響を与えていると考えられる。また、本市との関わりで、4人に1人は「以前住んでいたことがある」と答えていることや、転入の決定理由として「生まれ育ったところだから」が14.9%あることから、家族など人とのつながりの他に、住み慣れた土地というのが、居住先の決定に少なからず影響を与えていると考えられる。

これらのことや、本市に転入した方の約8割は、本市と何らかの関わりがあったことから、過去に本市に居住していて転出した方や、本市に家族などのつながりがある市外に居住している方に対して、結婚、仕事、住宅などをきっかけとして、本市に転入してもらえるような情報発信の検討や、本市を訪れたことがある人を増やすことも、転入促進の面から必要であると考えられる。

(6) 転出先、転入先の情報源

ア 住宅情報、不動産情報と転入、転出先

転入者も転出者も、約60%の方が、転入、転出先の情報源は「住宅情報・不動産情報ホームページ」であったと回答している。

このことから、多くの転入出者がホームページ上で、物件情報を確認し、住宅・家賃価格、通勤・通学時間、住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ）により、居住先の候補を検討していると考えられる。情報源や決定理由などを考慮すると、住みたい家やまちのイメージと市内の不動産情報・物件情報とのマッチングがうまくできれば、転入者の増加につながる可能性が高まると考えられる。

住宅情報や不動産情報に関わる企業と連携・協力し、魅力のある物件情報の発信や、本市の行政サービスを合わせてわかりやすくアピールできるような仕組みづくりが必要であろう。

1. 結果の考察

(7) アンケートからみた平塚市の強み、弱み

ア 平塚市の良いところ

本市の「良かったところ」と「悪かったところ」について転入者、転出者の評価は次のとおり。

[表6 転入者]

	転入者		良い		悪い		差
	選択肢		比率	順位	比率	順位	
平塚市の 良いと ころ・悪いと ころ	交通の利便性		28.5%	3	34.4%	2	-5.9%
	街並みや街の雰囲気		27.1%	4	13.2%	7	13.8%
	買い物の利便性		38.2%	2	22.1%	3	16.2%
	公園・自然環境		50.6%	1	5.0%	13	45.6%
	地域コミュニティ		10.3%	8	3.8%	14	6.5%
	医療・福祉		7.9%	9	13.5%	6	-5.6%
	子育て支援策		11.2%	7	15.3%	5	-4.1%
	教育環境		2.9%	15	6.5%	12	-3.5%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設)		24.1%	5	10.6%	10	13.5%
	文化・芸術活動		5.0%	14	3.8%	14	1.2%
	治安		7.9%	9	42.1%	1	-34.1%
	自然災害の多さ(少なさ)		5.6%	13	10.0%	11	-4.4%
	道路環境		20.6%	6	17.1%	4	3.5%
	その他		7.9%	9	13.2%	7	-5.3%
	無回答		5.9%	12	12.6%	9	-6.8%
計		-	-	-	-	-	

[表7 転出者]

	転出者		良い		悪い		差
	選択肢		比率	順位	比率	順位	
平塚市の 良いと ころ・悪いと ころ	交通の利便性		31.2%	5	41.3%	2	-10.1%
	街並みや街の雰囲気		36.6%	4	17.0%	4	19.6%
	買い物の利便性		51.1%	2	20.8%	3	30.3%
	公園・自然環境		55.2%	1	3.5%	14	51.7%
	地域コミュニティ		13.6%	9	4.1%	13	9.5%
	医療・福祉		14.5%	8	6.3%	11	8.2%
	子育て支援策		9.5%	10	7.9%	9	1.6%
	教育環境		7.6%	13	8.5%	7	-0.9%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設)		38.2%	3	5.4%	12	32.8%
	文化・芸術活動		6.9%	14	2.8%	15	4.1%
	治安		9.5%	10	52.1%	1	-42.6%
	自然災害の多さ(少なさ)		20.2%	7	9.5%	6	10.7%
	道路環境		21.5%	6	11.0%	5	10.4%
	その他		8.2%	12	8.2%	8	0.0%
	無回答		4.1%	15	7.9%	9	-3.8%
計		-	-	-	-	-	

- ・回答割合の差からみると、転入者は「公園・自然環境」が特に高い評価であり、転出者は、「公園・自然環境」、「買い物の利便性」、「公共施設」が高い評価となっていた【表6、表7】。これらのことから、本市が持つ資源である「公園・自然環境」や「公共施設」をうまく活用、連携していくことからはじめる必要があると考えられる。

イ 交通の利便性の向上

転出者、転入者共に本市へ抱く印象として「交通の利便性」を良いとする割合が比較的上位にある一方、悪いと評価する割合も高い。住居から最寄駅、最寄駅から通勤・通学先へのアクセス(距離、時間)が評価につながっていると考えられる。このことは、転入出にあたり、新しい居住先を探す際に重視したことと、実際に決定した際の理由が、共に「通勤・通学時間」の割合が高いことから推測できる。最寄駅から通勤・通学先の交通の改善は難しいが、少なくとも、住居から最寄駅までの交通の利便性の向上は、転入の促進、転出の抑制のためには必要であろう。

1. 結果の考察

ウ ネガティブな治安イメージの克服

転入者、転出者共に、本市の治安へのイメージの悪さを指摘する回答が多くあった。理由としては、報道や伝聞などからのイメージや、軽犯罪に遭ったなどの実体験、街並み、夜道の暗さ、イベントの騒がしさ等が例として挙げられていた。治安に対するイメージの払しょくと、犯罪の抑止という、2つの観点から対策を練る必要があるだろう。

エ 新たなイメージの創出

本市の特色ある資源として、七夕まつり、ベルマーレ、総合公園、囲碁などが挙げられるが、転入者に本市のイメージを聞いたところ、転入前だけでなく転入後においても、「無回答」及び「特にない」とした方が多くいた。また、回答した方も、本市に対して明確なイメージがないからこそ、報道や伝聞などを通して触れた本市の情報がそのままイメージとなってしまっていると考えられる。

したがって、新たなイメージを創出するためには、本市の良い面について、各種メディアを通じて、市内外の多くの人を知る機会を増やす必要があるだろう。

